

栃木県立宇都宮白楊高等学校

1年間の活動について

私たちは、入学したときに産まれた「義君」と「ひとみ」の2頭を丹精込めて飼育してきた。その中でも3年生になったこの1年が最も2頭に携わる時間も多く多くのことを学ぶことができた。少しでも牛たちの夏場の暑熱ストレスを軽減するためのハエトラップの研究、県内6校との共同研究のクラフトパルプによる肥育牛の飼育など様々な体験を通して多くのことを学習してきた。中でもクラフトパルプ研究では餌の混合から給与までを経験し、食いどまったり、保管状況による餌の品質の悪化、混合時の攪拌の失敗など経験する中で牛を飼育する大変さを改めて実感することができました。牧草の生産では、昨年度からロール体系となり良質な牧草確保できるようになり粗飼料自給率100%を達成できた。また、圃場の一部で実験的にチモシーを生産し育成牛にとって柔らかく嗜好性の良い牧草の生産もすることができた。今後もこれらの学んだことを活かし頑張っていきたい。